野菜　**ヘチマ（早熟・普通栽培）**

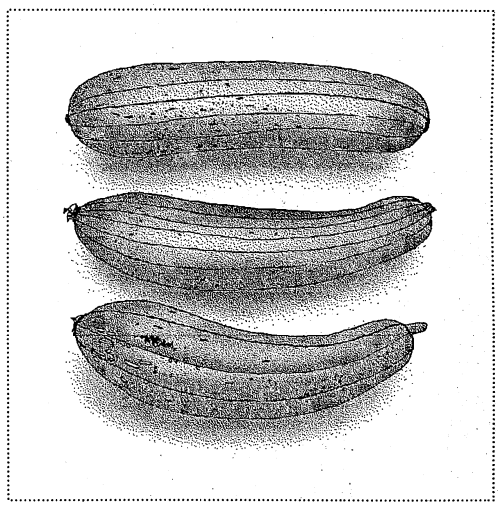
初期は人工交配が確実

――鮫島　國親

エンジョイ園芸

別名イトウリと呼ばれ、ユーモラスな果実がぶらりと下がる様子は花言葉の「悠々自適」そのものです。主に南九州、沖縄で栽培されています。食用種は開花後１０日前後の繊維や種子が発達していない幼果を収穫します。古くから薩摩の郷土料理として親しまれ、ゆでて酢みそかけや油いため、煮物、あえ物、吸い物の具などに利用されてきました。花は黄色で雌花と雄花が一つの株に別々に咲き、つるは５㍍以上になります。果実は細長く、食用種は長さ１㍍、直径９㌢くらいになります。可食適期の果実は水分、タンパク質、炭水化物などを多く含んでいます。今回は早熟及び普通栽培を紹介します。

生育適温は２５－３０度、発芽適温は２５－２８度です。短日条件下で雌花の発育が促進されるため、６月植えは開花が遅れます。連作はできるだけ避けましょう。種まきの適期は早熟栽培が１月上旬－２月上旬、普通栽培が４月上旬です。育苗箱を利用し、適温で発芽させ、ポットに鉢上げ後２０－３０度で管理します。



定植期は、初期の１カ月程度トンネル被覆する早熟栽培が３月中旬－４月上旬、普通栽培が５月上旬ごろです。本ぽには１平方㍍当たり苦土石灰１００㌘，堆肥２㌔、化学肥料３０㌘（三要素１５％の場合）を目安として施します。定植の１週間前に透明（黒）ポリをマルチします。栽植密度はうね幅６㍍（早熟栽培のトンネル幅１．３㍍）、株間１．５㍍とします。早熟栽培は本葉１４－１５枚（普通栽培は５枚）の大苗を植える場合が多いので、植え傷みを起こさないよう丁寧に植えましょう。定植後１カ月でトンネルを除去します。

つるが伸びてきたら高さ２㍍前後の棚に親づると子づる４－５本を誘引します。雌花は孫・ひ孫づるに多く着きます。ヘチマの花には昆虫がよく集まるので自然交配で十分ですが、初期は人工交配が確実です。追肥は定植１カ月後くらいから適宜施します。開花後８－１２日、長さ３０－４０㌢直径５㌢、重さ４００－５００㌘が収穫適期です。

（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

平成２０年２月１４日（木）／南日本新聞